

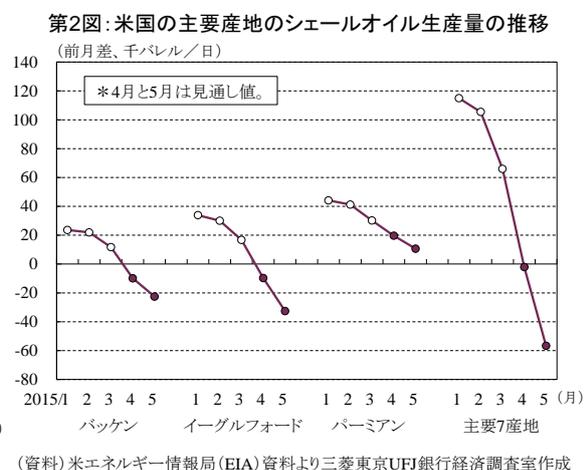
経済マンスリー [原油]

原油価格が持ち直した背景

原油価格は昨年 10 月から大幅下落が続いたが、3 月半ば以降、持ち直している（第 1 図）。WTI 期近物は 3 月中旬、供給過剰懸念の強まりにあわせて 1 バレル 43 ドル台と 6 年振りの安値をつけたが、下旬にはイエメン情勢を巡る中東地域の地政学リスクの高まり等を背景に、同 51 ドル台と 3 週間振りの高値に上昇した。その後、同 50 ドルを挟んで推移したが、4 月 13 日に米エネルギー情報局（EIA）が米国のシェールオイル生産減少の見通しを発表、15 日には国際エネルギー機関（IEA）が世界の原油需要を上方修正したほか、米国の原油在庫の増加幅が市場予想を下回るなど、供給過剰の解消につながる材料が続いたことから、WTI は同 56 ドル台と約 4 ヶ月振りの高値に上昇した。足元では地政学リスクを受けて、同 57 ドル近辺で推移している。

原油価格が持ち直しているのは、とりわけ米シェールオイルの生産減少の兆しが現れた影響が大きい。4 月 13 日発表の EIA の「Drilling Productivity Report」4 月分では、シェールオイル生産量が減少する見通しが示された。主要 7 産地のうち、バッケンやイーグルフォードなど 3 産地において 4 月のシェールオイル生産量は前月から小幅減少し、5 月には 5 産地でさらに減少する見通しが示されている（第 2 図）。この結果、5 月の主要産地全体の生産量は日量 556 万バレル、前月比▲1.0%と減少する見込みである。最も生産量が大きいパーミアンでは増産が続いているが、増加ペースは鈍化している。今後、米国のシェールオイル生産の拡大ペース鈍化がより明らかになってくるか否か、注目される。

また、米国の原油在庫は引き続き高水準だが、4 月 10 日までの週の増加幅が市場予想を下回ったことも、原油価格の持ち直しに寄与した。米国のシェールオイル生産量や原油在庫の動向が、市場の供給過剰感をどれだけ払拭できるかが、当面の原油価格を左右することになる。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。